



2P 吹抜けを渡る2本の太鼓梁が広間を支えるシンボリック的存在。天井まで広がる大きなガラス窓と相まって、開放感と重厚感のある広間となった。

3P 右上 外観を玄関側から見上げる。片流れを上下に組み合わせたシンプルな屋根形状とし、軒裏の垂木ピッチや窓格子がアクセントになっている。

3P 左 吹抜けに合わせて縦に伸びた薪ストーブ(ダブル:アストロライン)を設置。吹抜けのある大きな空間もこれ一台で十分に暖めてくる。

空間を支える2本の太鼓梁

Hさんのお宅は、一昨年の11月に完成し、二度目の春を迎えます。昨年は初めての薪ストーブに少し手こずった様子でしたが、今年は使い方にも慣れ、自分たちのペースで毎日欠かさず使っていると伺いました。広間の吹抜けに合わせて縦に伸びた薪ストーブもこの部屋のポイントですが、何といてもご主人こだわりの2本の太鼓梁が主役となり、開放的な空間の中に力強さのある雰囲気をつくっています。Hさんのお宅は、屋根裏を利用してつくられたロフトを除き、寝室と子供部屋を含めて平家での間取りとなっています。家の中心となる広間は、屋根形状をそのまま現した吹抜けとし、天井まで伸びた大きなガラス窓がより開放感を与えてくれます。構造的にも、この空間の存在感としても大切な役割を担っている太鼓梁には、杉や桧ではなく、少し弓形の赤松を使っています。設計当初は杉や桧の太鼓梁を考えていましたが、太鼓梁の乾燥材がほとんどなく、製材屋さんにあった桧は大きさや形が満足するものではありませんでした。古民家などで見かける黒光りした曲がった梁は、地松と呼ばれる赤松が使われていましたが、日本中どここの山にも自生していた赤松は松食い虫の被害の影響も大きく、今は岩手などの東北地方でしか松林を見ることが出来ないといま

暮らしを支える 木組みの家

完成現場報告
島田市／『弓の家』
文・写真／コロボ 山崎健治

三寒四温と徐々に暖かくなる春、今日の頃、自宅近くの川沿いにある早咲きの桜も満開になりました。まだ肌寒い日もありますが、天気の良い日は爽やかな風を取り込もうと窓を開け、春の匂いを感じる日も増えてきたように思います。先日写真撮影で伺った『弓の家』のHさんのお宅も、吹抜けといった大きなガラスから日が差し込み、室内はポカポカと、とても心地よい暖かさに満ちていました。

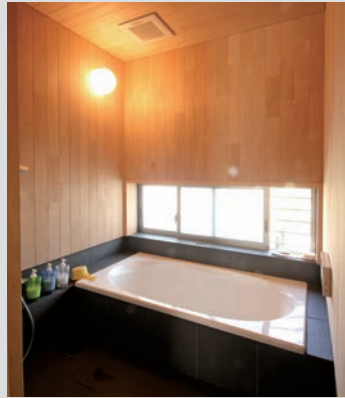




カーテンの代わりに障子を設けた寝室。木の空間と優しい障子の光に包まれた寝室は心地よい睡眠時間を提供してくれそう。



コの字型に配置されたアイランドキッチン。コンロ台の壁にはホーローパネルが貼られ、毎日綺麗に保つことが出来ると喜ばれている。

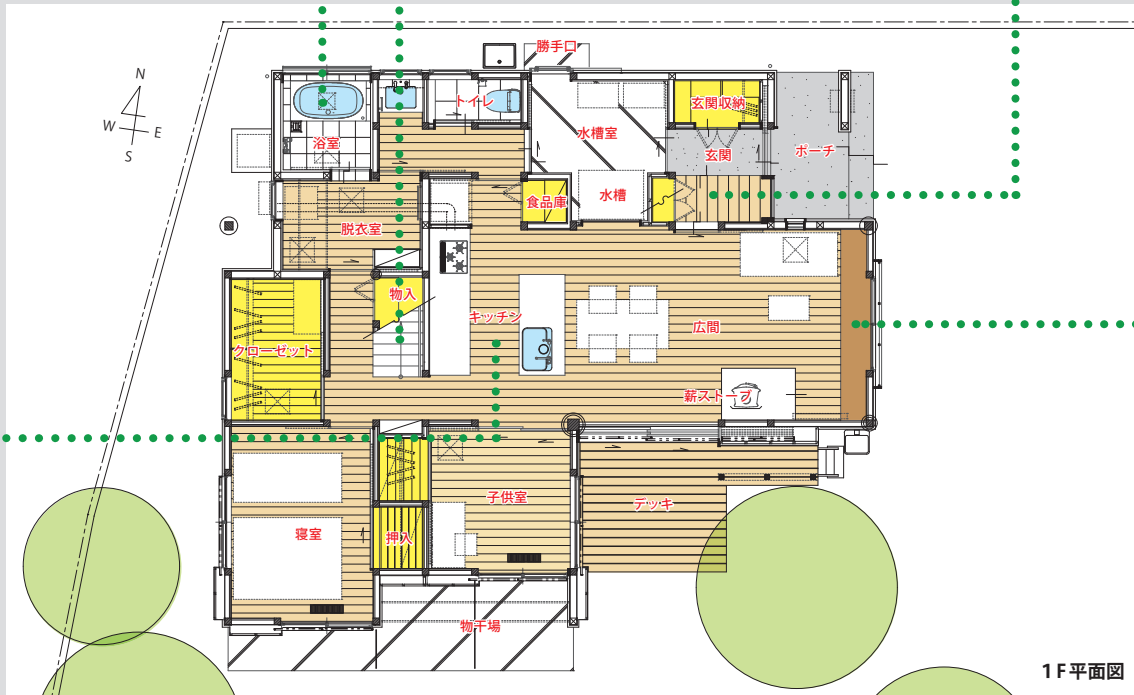


サーモタイルと青森ヒバのココラボ定番の木のお風呂。黒タイルは空間を引き締め、安定感のある雰囲気の仕上がり。



ロフトに上がるための階段。通常の階段に比べてコンパクトだが、ロフト梯子に比べて荷物の出し入れが断然に楽。

ナラの板戸と隣り合わせて乳白色のFIXガラスを設けた。1日を通してやわらかな光が玄関を明るくしてくれる。



1F平面図



ソファークーナーに設けた低めの収納カウンター。中にはDVDなどの機材が収納され、床下を通してTVに繋いでいる。



上) 吹抜け上部に設けたハイサイド窓は、やわらかな採光と暖まった空気の排気の役割を果たしてくれている。ガラス戸に挟んだ葛布やステンドグラスはどちらも海をイメージして制作した。



右) ダイニング側から水槽が眺められるガラス窓を設けた。

趣味室と無理のない生活動線

今回の太鼓梁は杉や桧では難しいと判断し、東北地方で日頃つきあいのある製材屋さんに相談しました。早速、何本かの赤松の写真を送ってくれ、形や大きさ、曲がり具合を写真や電話で確認し、急遽工場に入れていただくことにしました。届いた赤松はなかなかの良材で、2本の相性も良さそうでした。早速曲がり具合を見ながら大工と墨付けを行い、柱などの取り合いを考えながら木組みを行いました。赤松は桧同等の強度ですが、粘りがあり、明るい肌で艶もあります。また、少し曲がった材の方が構造的にも丈夫で、屋根を支えるには適した形状と言えます。今回は平家と言う事もありそれほど大きな荷重は負担していませんが、見た目の安心感や存在感としても十分にその役割を果たしています。

広間のダイナミックな空間が特徴のお宅ですが、Hさんの家には熱帯魚のためにつくった水槽室があります。この水槽室の一部は広間から見ることが出来、水槽の大きさに合わせて壁の一部が切り取られたようになっています。ご主人の趣味である熱帯魚を置くための部屋ですが、水槽の他にも餌や機材などを置くスペースが必要だったため、水の管理や音や匂いなどの事もあり、

広間に直接置くのではなく専用の部屋を確保して広間から鑑賞出来る工夫をしました。水槽室の床は土間で出来ているので少々汚れても気にならず、床に排水口を設けたので一番大変な水替えの際もスムーズに行う事が出来ます。水槽室は玄関から靴のまま直接出入り出来、また外部につながる出入り口も設けられているので、部屋を汚さず日々の世話が出来る動線も今回のプランの特徴になっています。

この水槽室ですが、生活動線としての役割もあり、そのままトイレや洗面室、脱衣室とつながっています。農業を営んでいるご主人、仕事柄汚れた服装での帰宅も多く、帰ってきたらそのままお風呂にGO！脱衣室はクローゼットや寝室ともつながり、ぐるっと回って広間につながる動線になっています。間取りを考えていく中で、日当たりが良く、開放的な広間を重要視する事は多いですが、その他の水回りや収納、またゴミ置場や洗濯物干し場などの生活スペースや動線を考えておかないと、せっかくの広間などに物が溢れ出し、落ち着かない空間になってしまいます。今回のHさんの家の間取りは、毎日の生活パターンを考え、生活動線や配置をつくる事が出来、日々の暮らしに無理のない住まいになったと思います。

仕様内容

外部仕上	家族構成	家族3人
	敷地面積	338.37㎡
	建築面積	97.55㎡
	延べ床面積	99.37㎡
内部仕上	構法	在来工法
	屋根	ガルバリウム鋼板 タテハゼ葺き
	外壁	ガルバリウム鋼板 角波縦貼り マサ土掻き落し仕上
	外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、ヒバ(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
設備	天井仕上	杉板本実張り 厚30mm・12mm
	壁	青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm 漆喰塗り、青森ヒバFJ本実板張り、 クロス貼り
	床	杉本実板 厚30mm
	内部建具	オリジナル木製建具 葛布ガラス入框戸
設備	キッチン	ステンレスヘアーライン天板 オリジナルキッチン
	洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板 システムJオリジナル洗面化粧台
	浴室	オリジナル浴室 300角サーモタイル貼 青森ヒバ貼
	設計者	山崎健治
竣工	施工	有限会社ころ木造建築研究所
	竣工	平成27年11月



デッキからダイニングを見る。大きなガラス窓を開放すると内部と外部が繋がった特別な空間が出来上がる。心地よい天気の日にはここでランチでも…。ちょっとした工夫やアイデアが楽しい暮らしを演出してくれる。

暮らしにあった住まい

Hさんが木の家に関心を持ったのは、3年前にコロボで家づくりをさせていただいた、『風音の家』のYさんのお宅に遊びに行ったのがきっかけと伺いました。数年前から家づくりを考えてはいたましたが、なかなか自分たちのイメージする家に出会うことが出来ず悩んでいた頃、友人のYさんの木の家を見て、暖かく優しい雰囲気の木の家がとても気に入ったと話してくれました。当社も今年の春で12年目に入ります。木の家の仲間も増え、薪づくりの集まりやこころばスクール、最近では『こころばの家』でのイベントなどを通して、様々な交流が生まれています。木の家に暮らす者同士の情報交換をしたり、これからの家づくりを考えている方は住まい手の先輩にアドバイスをいただいたり、ホームページやカタログだけではわからない実際の声を聞くことで参考になることも多い様です。また、今回のHさんの様に、お友達や知り合いの家を見て木の家の良さを実感したという声も聞くようになりました。家づくりは人生の中で大きな選択で、今後の暮らしを180度変えてしまう大切なプロジェクトです。楽しい毎日、心地よい暮らしを送るために、自分たちにあった住まいをつくりあげていただきたいと思います。



玄関と広間の出入りに設けた、葛布入りのガラス戸。上から下に向けてグラデーションをつけた藍染め仕上げになっている。



玄関正面。袖壁には表札とポスト、インターフォンを設置し機能をコンパクトにまとめている。外壁は左官屋オリジナルのマサ土掻き落とし仕上げ。



タイトルにある“弓”をイメージした玄関取っ手はアイアンの叩き仕上げで制作。大きな取っ手は開閉も便利で、デザインと機能が考えられている。



玄関ポーチに設けたダルステンドガラスの飾り窓。広間から見ると北側の明かりで映え、美しい色が楽しめる。ブルーとクリアでまとめ、海をイメージしている。



山桜の厚板で制作した玄関の式台。硬質で艶があり、赤みの強い色合いが特徴。使われる事で艶が増し、年月とともに光沢が出てくる。